

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 16 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25284164

研究課題名(和文)自然の生産と消費に関する批判地理学的研究

研究課題名(英文)Critical geographies on production and consumption of nature

研究代表者

中島 弘二 (Nakashima, Koji)

金沢大学・人間科学系・准教授

研究者番号：90217703

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題は現代社会における「自然」の役割を批判的に明らかにするとともに、日本における「自然の地理学」研究の活性化を図り、その成果を国際的に発信することを目的とした。その結果、各分担研究者による論文発表や学会発表および全体研究会(5回)のほか、本科研グループによる国際地理学連合京都会議における国際セッションの開催(2013年8月)、学会誌「人文地理」の英文特集号“Rethinking geographies of nature”の刊行(2014年12月)、および日本地理学会春季学術大会におけるシンポジウム「自然の生産と消費」の開催(2016年3月)と、ほぼ予定通りの成果を上げることができた。

研究成果の概要(英文)：This research program critically examines the role of “nature” in contemporary society, and aims to develop “geographies of nature” in Japan and to share its result with overseas critical geographers of nature. Through three years of research workings, we achieved satisfying result as follows: 1) publication of academic papers and books on geographies of nature and paper presentation at academic conferences, 2) five times research meetings of our group, 3) international sessions on “Rethinking geographies of nature” organized by our group at the International Geographical Congress Kyoto Regional Conference 2013, 4) a publication of Special Issue of Japanese Journal of Human Geography (66-6, 2014) titled “Rethinking geographies of nature” edited by Nakashima, and 5) a symposium of “Production and consumption of nature: from the viewpoint of geographies of nature” organized by our research group at the Annual Meeting of the Association of Japanese Geographers 2016.

研究分野：人文地理学、自然の地理学

キーワード：自然の地理学 自然の審美学 自然の政治学 グローバル化と自然

1. 研究開始当初の背景

(1) 英語圏の地理学においては1980年代後半より「自然の地理学 geographies of nature」と呼ばれる一連の研究がおこなわれてきた。それは単に自然に対する構築主義的アプローチにとどまらず、社会そのものが自然の生産と消費を通じて構築／再構築される諸過程を明らかにしようとする社会批判の理論として展開した。

(2) 日本の地理学においても自然と社会に関する研究は経済地理学や文化地理学、政治生態学など様々な分野で蓄積されてきたが、英語圏の「自然の地理学」のように社会化された自然を主題とする研究は少なかった。近年ようやく日本の地理学界においてもそうした研究がみられるようになってきたが、専門分野の違いから、それらの研究は相互に結びつけられることもなく、別々におこなわれてきた現状がある。

2. 研究の目的

(1) 英語圏の「自然の地理学」の成果をふまえて、現代社会における「自然」の多様な役割を批判的に明らかにすることで、「空間」や「場所」と同様に現代社会を批判的に読み解くための地理学的な知として「自然」を位置づけ直すことを試みる。

(2) 日本においてこれまで別々に研究されてきた自然と社会に関する研究を日本における「自然の地理学」研究と位置づけて研究の組織化を図るとともに、積極的に海外に発信することで国際的な「自然の地理学」研究との節合を図る。

3. 研究の方法

(1) 英語圏の「自然の地理学」の成果に基づき、1)自然の社会的構成、2)自然の政治学、3)自然の商品化、という3つの視点を設定する。そのうえで、各メンバーの問題関心に沿って、1)理論・方法論(中島・森)、2)自然の社会的構成(福田・森・橋)、3)自然の商品化(伊賀・浅野)、4)自然の政治学(石山・中島・浅野)の4つの役割分担を設けて、それぞれの研究班ごとに研究を進めた。

(2) 全体作業として、1年に1～2回の研究会の開催と国内外の学会での研究発表をおこなう。研究会ではメンバー相互の研究発表をおこなうとともに、全体作業に関するビジネスミーティングをおこなう。また、海外への成果発信として国際学会への積極的な参加と、本科研グループによる国際学会でのセッションの開催と国内学会でのシンポジウムの開催、および学会誌での英語論文の発表などをおこなう。

4. 研究成果

(1) 「自然の地理学」の3つの視点

当初に想定していた「自然の地理学」の3つの視点-1)自然の社会的構成、2)自然の政治学、3)自然の商品化-は、それぞれの研究メンバーの研究成果をふまえて、最終的に以下の3つに再編されることとなった。

①自然の審美学

自然の価値や意味において視覚が果たす役割は大きい。棚田やガーデンは自然的なものと人工的なものが混じり合ったものであると同時に、視覚的に生産・消費されるものである。そこでは審美的な対象として種別的な自然が生産されるとともに、そうした自然が持続可能性や豊かさ、健康などの文脈で読解され、消費されている。

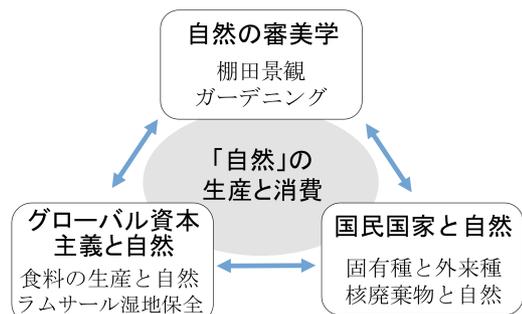
②自然の政治学

審美的な自然が生産される時、それは政治的な権力が発動される時でもある。日本産トキなどの固有種は外来種を時間-空間的に排除することによって審美化され、本質化される。また、核によって汚染されたハンフォードサイトでは、その痕跡が不可視化されるとともに、「原生自然」化された自然を対象とした観光化・産業化が進展する一方で、そこから先住民族が排除される政治的過程が進行している。

③グローバル化と自然

自然保護や環境保全は今や地球規模の課題とみなされつつあるが、一方でナショナル、ローカルなスケールでは「保全と利用」をめぐって異なる議論が展開されている。また、食料生産の現場では、科学技術の進歩によって自然的制約から解放された生産が行われる一方で、ローカルな自然環境に埋め込まれた生産も行われている。そこでは技術を媒介として自然と社会との異種混交的な関係が展開している。

以上の3つの視点は以下の図のように示される。ここには現代における自然の生産と消費を批判的に捉える視点が示されている。現代における「自然」は社会的・文化的に生産され、そしてそれらの消費を通じて新たな経済活動や政策、社会運動が生み出されるような役割を果たしている。本研究ではそうした自然の生産と消費の様態を「審美性」と「グローバル化」、そして「国民国家」との関連から批判的に明らかにすることができた。



(2) 日本における「自然の地理学」の組織化と海外への発信

この点について、本研究では以下の3つの点で大きな成果を上げることができた。

①国際地理学連合 (IGU) 京都会議における国際セッションの開催

2013年8月に京都市の国際会館で開催された国際地理学連合京都会議において、本科研グループを中心にして2つの国際セッション“Picturesque, natures, and landscape management: cross-cultural perspectives”および“Imagining nature in alternative ways”を開催した。同セッションには英国から Charles Watkins 氏、およびイタリアから Marcella Schmidt di Friedberg 氏を招いて、フロアからの参加者を含めて活発な議論が展開された。

②「人文地理」英文特集号の刊行

上記の IGU 京都会議における国際セッションの成果をもとにして、「人文地理」の英文特集号“Rethinking geographies of nature”(第66巻6号)が刊行された。同誌は研究代表者の中島がゲストエディターとなり、本科研メンバーによる論文7本と Watkins 氏の論文が寄稿された。

③日本地理学会春季学術大会でのシンポジウムの開催

2016年3月に早稲田大学で開催された日本地理学会春季学術大会において、「自然の生産と消費-「自然の地理学」の視点から」と題するシンポジウムを開催した。本科研メンバー7人がこれまでの研究成果を元にしてそれぞれ研究発表をおこない、本科研の総括的な報告をおこなった。

上記のほか、全部で5回開催された研究集会では、海外および国内の若手研究者を招いて、研究発表をおこなうとともに活発な討論をおこない、「自然の地理学」研究の裾野を広げる活動をおこなった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 22 件)

①浅野敏久、金どう哲、伊藤達也、平井幸弘、香川雄一、フクカカロリン、2015、ラムサール条約湿地に対するイメージの日韓差、地理科学、70、60-76、査読あり

②福田珠己、2014、「自然」は自然なものか？-近年のランニング・ブームに関する一考察、経済地理学年報、60、301-312、査読あり

③Tachibana, S. 2014. The ‘Capture’ of exotic natures: cross-cultural knowledge and Japanese gardening in early 20th century Britain. 人文地理、66、492-506、査読あり

④Mori, M. 2014. The localness, materiality, and visibility of landscape in Japan. 人文地理、66、522-535、査読あり

⑤Asano, T. 2014. International nature reserves and local inhabitants: the case of “wise use” of Ramsar wetlands in Japan. 人文地理、66、536-551、査読あり

⑥Iga, M. 2014. Changing agri-food systems in the global economy. 人文地理、66、552-564、査読あり

⑦Nakashima, K. 2014. Introduction: rethinking geographies of nature. 人文地理、66、489-491、査読あり

⑧Nakashima, K. 2014. Re-appropriating the grassland: toward an alternative production of nature for changing militarized reality. 人文地理、66、565-579、査読あり

⑨石山徳子、2013、アメリカ原子力開発と犠牲区域の空間構築-ナバホ・ネーションにおけるウラン開発を事例に、年報社会学論集 26、5-16、査読なし

⑩中島弘二、2013、泥、石、身体-身体と物質性をめぐるポリティクス-、空間・社会・地理思想、17、19-32、査読なし

[学会発表] (計 43 件)

①浅野敏久、ラムサール条約への対応、日本地理学会春季学術大会、2016年3月22日、早稲田大学(東京都・新宿区)

②伊賀聖屋、社会・自然・技術ネットワークと食料の生産空間、日本地理学会春季学術大会、2016年3月22日、早稲田大学(東京都・新宿区)

③石山徳子、プルトニウム生産拠点、ハンフォード・サイトの「自然」、日本地理学会春季学術大会、2016年3月22日、早稲田大学(東京都・新宿区)

④橘セツ、キッチン・ガーデンの審美学-18世紀後半から20世紀の英国の事例を中心に-、日本地理学会春季学術大会、2016年3月22日、早稲田大学(東京都・新宿区)

⑤中島弘二、自然の生産と消費-「自然の地理学」の視点から-、日本地理学会春季学術大会、2016年3月22日、早稲田大学(東京都・新宿区)

⑥福田珠己、農村景観と美の枠組み、日本地理学会春季学術大会、2016年3月22日、早稲田大学(東京都・新宿区)

⑦森 正人、美しきものと政治的なもの-自然・種・セキュリティをめぐる問い-、日本地理学会春季学術大会、2016年3月22日、早稲田大学（東京都・新宿区）

⑧中島弘二、戦後の大分県における米軍接収反対運動-生活世界からの抵抗-、日本地理学会春季学術大会、2015年3月29日、日本大学（東京都・世田谷区）

⑨Iga, M. Evaluating the economic recovery of post-tsunami Aceh Province: spatial restructuring of shrimp and fish supply chains. The 5th Biannual International Conference on Aceh and Indian Ocean Studies, 2014年11月18日、シアクラ大学（バンダアチェ・インドネシア）

⑩石山徳子、アメリカ先住民と原子力開発-マンハッタン計画と除染の現場から-、アメリカ史学会、2014年9月28日、亜細亜大学（東京都・武蔵野市）

⑪福田珠己、「自然」は自然なものか？-近年のランニング・ブームに関する一考察、経済地理学会第61回大会、2014年5月24日、名古屋大学（愛知県・名古屋市）

⑫Asano, T. Lake conservation movement in Japan viewed from the model of the spatio-temporal structure of environmental controversies. International Geographical Union Kyoto Regional Conference, 2013年8月6日、国立京都国際会館（京都府・京都市）

⑬Ishiyama, N. Politics of nature in the context of historical colonialism: case study of Death Valley National Park. International Geographical Union Kyoto Regional Conference, 2013年8月5日、国立京都国際会館（京都府・京都市）

⑭Tachibana, S. Travel, cross-cultural knowledge, and female horticultural education: Japanese gardens in early twentieth century Britain. 2013年8月6日、国立京都国際会館（京都府・京都市）

⑮Nakashima, K. Geographies of nature and Neil Smith: toward alternative production of nature. 2013年8月5日、国立京都国際会館（京都府・京都市）

〔図書〕（計12件）

①森 正人、角川書店、戦争と広告、2016年、265ページ

②西田慎、梅崎透、栗飯原文子、安藤丈将、兼子歩、河野真太郎、田中晶子、中村督、福田宏、横山政子、石山徳子、ミネルヴァ書房、グローバル・ヒストリーとしての「1968年」

-世界が揺れた転換点-、2015年、416ページ（石山分担執筆：363-386ページ）

③荒木一視、高橋誠、高柳長直、伊賀聖屋、今野絵奈、ナカニシヤ出版、食料の地理学の小さな教科書、2013年、163ページ（伊賀分担執筆：87-98ページ）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

中島 弘二 (NAKASHIMA, Koji)  
金沢大学・人間科学系・准教授  
研究者番号：90217703

### (2) 研究分担者

浅野 敏久 (ASANO, Toshihisa)  
広島大学・総合科学研究科・教授  
研究者番号：00284125

伊賀 聖屋 (IGA, Masaya)  
名古屋大学・環境学研究科・准教授  
研究者番号：70547075

石山 徳子 (ISHIYAMA, Noriko)  
明治大学・政治経済学部・教授  
研究者番号：70386415

橋 セツ (TACHIBANA, Setsu)  
神戸山手大学・現代社会学部・教授  
研究者番号：70441409

福田 珠己 (FUKUDA, Tamami)  
大阪府立大学・人間社会学部・教授  
研究者番号：80285311

森 正人 (MORI, Masato)  
三重大学・人文学部・准教授  
研究者番号：10372541

(3) 連携研究者  
( )

研究者番号：

(4) 研究協力者  
ジェイ・ボルトハウス (BOLTHOUSE, Jay)  
ニューヨーク州立大学ビンガムトン校・博士  
士後期課程大学院生